



〈研究〉Fernao de Magalhaes ヲ僣ビテ

石川, 文吾

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 29(5):733-746

(Issue Date)

1920-11

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053253>



研究

Fernao de Magalhaesヲ偲ビテ

東京商科大學教授

石川 文 吾

一

南米ノ南端、文明人ノ棲息スル世界最南端ノ一小港 Punta Arenas ハ今年秋季ニ於テ彼地開國以來未曾有ノ盛儀ヲ見ルベシト傳ヘラル、主催者タル智利國ノ官民ハ云フニ及バズスペイン、ポーチユガル政府ノ代表者亦之ニ參加シ、今次新ニ彼ノ地ニ建設セラルベキ世界的偉人ノ銅像ヲ環リテ嬌歌緩舞歡聲大ニ湧カントス、智利國ニ於ケル既設鐵道ノ最南終點驛タル Puerto Montt ヨリハ當日郵便物ヲ搭載セル數臺ノ飛行機出發シ、彼國ノ西海岸ニ沿ヒテ一千哩ノ航空ヲ爲シテ此ノ地ニ着陸スルノ舉アリ巨額ノ賞金其ノ成功者ニ贈ラルベシ、怒濤澎湃タル南溟ノ一角ハ斯クシテ漸ク世人ヨリ忘レ去ラレントスル千古ノ英傑ノ事蹟ヲ記念スル爲メノ新裝ヲ着クルニ至リ、南洋ノ蠻地ニ骨ヲ埋メテ其ノ墓地サヘモ確認セラレザル偉人ノ靈亦少ク慰ムル處アリ得ルモノト云フベシ、偉人トハ誰ゾ英傑トハ何者ゾ曰ク今ヲ距ル正ニ四百年以前南米ヲ廻航シテ世界ノ周航ノ可能ナルヲ天下ニ示

シタニ Fernas de Magalhaes 即チ其人ナリ(註一)

Magalhaes ハ英語ノマゼランナル名稱ヲ以テ知ラル、處寧ロ多シ、其ノ南米大陸ノ南端トテラ・デル・フエゴヲ隔ツル海峡ニ入レルハ實ニ千五百二十年十月二十一日ニシテ三百二十哩ノ海峡通過ニ五週餘ヲ費シ、十一月二十八日ヲ以テ全ク通過ヲ了リ白帆更ニ渺茫タル烟波ヲ航シ一路世界一周ノ航海ニ上レリ、由來 コロンバス ノ名ハ市井ノ年少亦之ヲ知り海上ノ偉業ヲ論ズルモノ常ニ彼ノ名ヲ擧ゲテ動モスレバ他ヲ顧ミザルノ傾向ナシトセズ、是レ蓋シ コロンバス ニ付キテハ彼ノ前後四回敢行セル探險事業ガ混沌タル太古以來隔絶シ來レル人類ノ二大分派ヲ連絡スルニ至レル點ニ於テ彼ノ Eike ノ謂フ如キ深長ナル歴史の定義ヲ有シタル事ヲ、彼ノ世界ニ紹介セル西印度及ビ中央アメリカガ彼ノ期待セル貴金屬ニ豐ナラザリシ結果トシテ、却テ着實ナル殖民者ノ移住ヲ誘致シ順調健全ナル發達ヲ遂ゲ偶然ト云ハバ云ヘ頗ル灼爛タル果實ヲ結ブニ至ラシメタル事ヲ、當然彼ニ感荷スル處大ナルベキ米國人ノ著書ガ汎ク内外ニ行ハレ彼ノ思想ガ多數國民ノ胸裡ニ漫漶セル事ト殊ニ又彼 コロンバス ハ幸運ニモ幾回ノ航海ニ身ヲ全フシテ還リ其ノ談片話柄ガ自ラ自家廣告ヲ爲セルモノモアルベキナリ、マゼラン至リテハ其ノ周港セル地點久シク世界ノ文明圈ノ外ニ在リテ其ノ發見ガ直接物質的ノ美果ヲ生ゼザリシノミナラズ、彼自身不幸征途ニ死シ其ノ傳記トシテ遺サレタルモノハ中途遁竄シテ故國ニ還レル彼ノ敵ノ與ヘタル誣罔ノ事實ヲ外ニシテハ、僅ニ彼ト偕ニ征途ニ上リ萬苦ノ餘身ヲ完フシテ歸レル伊國人 Antonio Pigafetta ノ航海日誌ノ存スルアルノミニシテ史料ノ乏シキハ即チ彼ノ功名ノ喧傳セラレザル所以ナラズンバアラズ(註二)

史ヲ論ズル者亦從テドレーク・コロンバス等他ノ探險者ノ傳記功蹟ヲ誌スル甚密ナルニ反シマゼランニ付キ掲グル處ハ甚鮮シ、彼ノ *Historian's History of the World* ヲ始メトシテ殆凡テノ人名辭書ハコロンブスノ傳記ニ供スル紙面ノ半ヲモ彼ノ爲メニ割ク事ヲ爲サルナリ、有名ナルフイスケノ如キモ別ニ陳ブル如ク時々彼ヲ稱揚シテコロンブスノ遠ク及バザルモノト爲シナガラ其ノ世界百偉人傳(註三)ニ筆ヲ執リテ大發明者大發見家等ノ傳記ニ序言ヲ誌スルニ方リテハコロンバスヲノミ舉ゲテ一言ノマゼランニ及ブナキナリ、然レドモマゼランヲ以テコロンブスニ比スレバ其ノ探險事業ノ大膽ナル事ニ於テ其ノ貢獻セル學術上ノ成果ニ於テ將タ又其ノ世界商業ノ進展ヲ促シタル事實ニ於テ前者ハ遙ニ後者ヲ凌駕スルモノト云ハザルベカラズ、コロンブスガ第三回ノ航海ニ於テトリニダツドヲ經テアリノコノ河畔ニ到リ第四回ノ航海ニ方リテホンデユラスヲ發見シテ新大陸ヲ世人ニ紹介シタルハ全ク怪我ノ功名ニシテ、彼ノ素懷ガ茲ニ達セラレタリト考フルニ非ナリ、事實ハ彼自身ト雖モ其ノ最後ノ日ニ至ルマデ是等ノ地ガアジア洲又ハ印度ノ西端ナルヲ信ジテ疑フ處アラザリシ程誤マリ居タリシナリ、マゼランノ偉業ハ決シテ爾ク偶然ナル成功ニアラズ、誤解ヲ以テ終始セル探險事業ニハアラズシテ豫定ノ計畫ヲ豫定ノ順序ニ於テ完成シタルモノナリ、彼ハコロンブス其他多數ノ探險者ノ爲サント欲シテ然モ爲シ得ザリシ處ヲ最初ヨリ爲シ得ルヲ信ジテ敢行シ善ク其ノ素志ヲ達セルモノナレバナリ。

(註一) *Printed at the New York Times Book Review and Magazine, Aug. 1, 1920, p. 11. 以下ニ詳ナリ。*

(註二)

ヒガフエツタノ手記ハ、マゼランノ史ヲ編ム者ノ唯一ノ種本ナルモノノ如ク傳記多シト雖モ此書ノ載スル處以外ニ及
 アモノ殆ナシ、只僅ク M. B. Sygne: *The Story of the World*, London, 1907, Vol. II, p.p. 181—193. ニマゼ
 ランノ壯年時代ニ付キ及ビ航海中ノ事實ニ付キテモ異色アル材料ヲ載セタリ、ヒガフエツタノ手記ハ其後 *Tord Stan-*
ley ニ依リテ *First Voyage around the World* トシテ出版セラレタルガ、近ク又 James Alexander Robertson
 ニ依リテ *Magellan's Voyage around the World by Antonio pigafetta*, 3 Vols, Cleveland, 1906 トナリテ公刊
 セラレタリ、ヒ氏ノ手記ノ全文ヲ原文ノ儘ニ掲出シ之ガ譯文ト註釋ヲ添ヘタル大著ナリ、別ニ簡潔ナルモノトシテ
 ン Philip J. Alexander: *The Earliest Voyages round the World 1519—1617*, Cambridge, 1916 アリテ八十四頁
 ニ亘リヒガフエツタノ手記ノ英譯文ヲ載セタリ。

(註三) *Wallace Wood: The Hundred Greatest Men*, New York, 1889.

二

地球ガ果シテ地球ヲ爲セルヤ否ヤニ付テハ當時ノ學者中之ヲ是定セル者ハアリシモ何レモ空漠タ
 ル推理推定ニ留マリ居タルモノニシテ、其ノ憶測ガ事實ノ上ニ立證セラレ弧帆西ニ航シテ極マル處
 ナクンバ即チ世界ノ東陸ニ達シ得ベシトノ教訓ガ廣ク會得セラル、ニ至リシハ、彼ノ統率セル船隊
 ガ始メテ太平洋ノ波濤ヲ冒シテス**バイス**群島ニ達シタル事ノ結果ニ外ナラズ、彼ノ探險ハ中世人ノ
 理論ヲ破潰シ信念ヲ轉覆シ永久ニ且ツ萬人ニ地球ノ形狀ト大サトヲ爭疑ノ餘地ナク了解セシメタル
 モノニシテ世界ガ早ク文化ニ赴キ基督教ニ歸依シ到處殖民殖産及貿易ノ隆盛ヲ見ルニ至レルモノ彼
 ノ賚ニアラズシテ何ゾヤ、マイヤーハ世界ノ文明ヲ三時代トナシ初期ニ於テハ河川時代中頃進ミテ

内海時代トナルモノトナシ、而シテ最後ノ發展ガ海洋時代ナル事ヲ論ジテ海洋時代ノ到來ヲ促進スル最大ノ勲業ハマゼラン其人ニ歸セザルベカラザルヲ切言セリ（註四）、然モ世ノ感謝ハコロンブスニ甚厚キニ反シマゼランニ對シテハ極メテ薄シ、コロンブスノ晩年ハ必シモ得意ノ境遇ニハアラザリシト雖モ其ノ第一回ノ航海ヲ了リテヨリ千五百年偶々事ニ坐シテ失脚セル迄ノ彼ハ顯榮一身ニ集マリ絶大ノ寵兒トシテ善ク榮華ヲ恣ニスル得タリ、彼ノ弟 *Giacomo* 彼ノ息 *Diego* 彼ノ庶子 *Fernando* 彼ノ孫 *Luis* 等盡クスペイン朝廷ノ殊遇ヲ受ケ一門ノ光榮匹儔スルモノ少ク其ノ後裔今ニ及ビ尙彼國ニ在リ、況ヤ多クノ史家ハ彼ノ功業ヲ特筆シテ英名遠ク傳ヘラレ三尺ノ童子亦彼レヲ憧憬スル事極メテ大ナルニ於テ乎（註五）彼ノ果報ヤ誠ニ大ナリト云フベシ、マゼランニ至リテハ即チ然ラズ身ヲ瀾濤ニ託スル事半歳飢餓ト戰ヒ瘡痍ヲ冒シ部下ノ將卒葡萄牙人タル彼ヲ嫉視シ幾度カ背キテ彼ヲシテ間髪ヲ入レザル危地ニ臨マシメシモノ一再ニ留マラズ、艱難具ニ嘗メテ前人未知ノ海洋ヲ究メ其ノ文化ニ貢獻シタル事ノ大ナルガリレヲ・ニウトンノ偉業ニ譲ラザルモノアルニ拘ラズ不幸身ヲ南蠻ノ鋒鏑ニ隕シ英魂祀ラル、ナシ、今次此ノ偉人ヲ欽慕追想スベキ好時期ニ方リテモ世界ノ文明國悉ク聲ヲ潜メテ恰モ彼ヲ記憶セザルモノ、如キアリ、僅ニ智利國ノ人士ガ小ナル記念事業ヲ起シテ彼ヲ生ミ出セル葡萄牙並ビニ彼ヲ援ケタル西班牙國ノ有志ヲ會シテ其ノ儀式ヲ行フノミナルハ決シテ此ノ絶大ナル世界文化ノ恩人ニ酬ユルノ途ニアラズ、喩ヘバ犠牲の精神ヲ以テ奮闘の生涯ヲ送り大ニ國ニ報ジ世ヲ益シタル人ノ忌辰ニ方リ彼ノ恩澤ニ浴シテ富メル多數ノ世人ハ其ノ德ニ狎レテ禮ヲ盡サズ、僅々微祿セル彼ノ子孫ガ奇特ナル二三子ノ來會ヲ得テ形バカリノ佛事ヲ營ム

ニモ似タリ、槍イ哉。

(註四) *Mayers: The Modern Age, New York, 1903, p.p. 15.*

(註五) 彼ノ血族ニ關スル記事ハ *Century Dictionary and Encyclopedia*, IX ニ見タルコロンブス一家ノ傳記ニ取リ彼ノ後裔ニ付キナン *Hazell's Annual, 1893*, 中ノコロンブス記念祭ノ記事ニ據ル。

三

ローマ法王アレキサンダー四世ガ世界ノ平和ノ支持者トシテ西葡兩國ノ軋轢ヲ防ガン事ヲ期シ千四百九十三年有名ナル敎書ヲ下シ、二國政府ノ探檢獲得スベキ地域ヲ指定シ、翌年更ニ開カレタル *Convention of Tordesillas* ハ少シク地域ヲ更メテ二國ノ活動ノ範圍ヲ確定シタル爲メ、當時ノスベインハアフリカ航路ヲ經テ印度洋ニ勢力ヲ扶殖スル事ヲ禁止セラレ彼ノ渴仰サレタル寶庫ニ達スルノ道ハ針路ヲ西ニ取リテ彼ニ至ルノ一策アリ得ルノミトナレリ (註六) 而シテ新大陸ノ南端ニ彼ニ通ズベキ海路アル事ハ當時尙一大疑問ニ屬シ新大陸ノ南ハ所謂 *Terra Incognita Austere* トシテ遠ク南極ニ連亘スルモノト看察セラレ、僅々一部少數ノ學者ガ殆神祕的ニ曩ニアフリカノ回航ガ行ハレタル事實ニ徴シ此處ニモ亦通航スベキ水路アルベシト想像シタルノミナル如ク、*Schöner* ガ千五百十五年及ビ千五百二十年ニ著セル世界地圖ノ如キハ曖昧ナガラ此海路ヲ表ハシタリ (註七) 然レドモ此海路ガ事實舟行ヲ許ス程度ノモノナリヤニ付テハ何人モ知ルモノナク *Coelho, Jaque, Solis* 等ノ悍勇ヲ以テシテ足蹟未ダ曾テブラタ川以南ニ及バズ、南濱一帯ノ天地ハ魑魅棲ムカ魍魎集フカ全然世人ノ解スル能ハザリシ處タリシナリ、マゼランノ雄圖ハ此間ニ熟シ先ヅ葡王エマニウエルニ

説キタルモ容ル、所トナラズ、時偶其ノ當時モラツカス群島ニ駐マレル其ノ友セラノノ通信ニ依リ貴重ナル香料ノ產地ガ歐洲ヲ距ル極メテ遠キ東方ニ存スルヲ知り、地球圖シトセバ斯クモ遠キ絶東ノ地ハ西ヨリ彼ニ到ル事ニ依リ却テ近カルベキ事トケープバード群島ノ西三百七十五「リーグ」ノ子午線ヲ境界トシテ其東西ニ依リ葡西ノ活動ノ範圍ハ限定セラル、モ、東ニ向ツテ斯クモ隔絶セル東印度ノ地ハ偶却テ西班牙ノ獲得スベキ範圍ニアリテ存スベシトノ學理上提言シ得ベキ併シナガラ甚大膽ナル確信ヲ起シ(註八) 千五百十七年西班牙ニ赴キ幸ニシテチャールス五世ノ知遇ヲ得テ建策悉ク入レラル、茲ニ於テカ出師ノ準備ニ二ケ年ヲ費シ千五百十九年九月二日重大ナル使命ヲ帶ビタル彼ノ一行ハガダルカイヴイル川ヲ降りテ白帆船點々遠ク漂渺タル煙波ニ入レリ偕ニ征路ニ就ケルハ五隻ノ小帆船ニシテマゼランヲ船長トセル旗艦「トリニダッド」(百十噸) ジュアン・ド・カルタデエナヲ船長トセル「サンアントニヲ」(百二十噸) ガスバー・クエサダヲ船長トセル「コンセブション」(九十噸) ルイ・ド・メンドーザヲ船長トセル「ウイクトリア」(八十五噸) 及ビデユアン・セラノヲ船長トセル「サンチアゴ」(七十五噸) 之ナリ、隊員ノ總數二百八十人國籍極メテ區々西、葡、獨、佛アリ英、希アリ其他ヂエノア人、シ、リ、人、フラマン人、マレー人及ビ黑人アリ渾然タル世界各國民ノ集合體ナリ、此行固ヨリ一スペイン國ノ爲メニ領土又ハ貴金屬ヲ獲得セン事ヲノミ期セルモノニアラズ、廣ク當時ノ世人ニ其ノ夢想ダニセザリシ新智識ヲ供給シ世界人類ニ教化ヲ布キ其ノ接觸、交驩及ビ貿易ヲ容易ナラシメ新シキ殖民地ト通商地ヲ求メンガ爲メノ計畫ニシテ、此點ニ於テ從來彼ノコロンプス、コルテズ等ノ爲セル遠征ト大ニ撰ヲ異ニスルモノアルヲ知ラバ、一行ガ斯ク

モ偶然ナガラ多數ノ國民ヨリ成レルハ頗ル興味アル事實ト云ハザルベカラズ。

船隊ハ千五百十九年十月二日カナリー群島ヲ出發シ南米ノ東岸ニ沿ヒテ南下スルモノ數週狂風屢々到リ飲水食料早クモ缺乏ヲ告ゲマゼラン麾下ノ將卒漸ク彼ノ命ニ從ハザルモノヲ生ゼリ、カルタジエナ先ヅ背キ桎梏シテ、ヴィクトリアノ船室ニ拘禁セラル、十一月二十九日ブラジルノ東岸現時ノバーナンブゴ附近ニ着シ更ニ南航シ歳洋上ニ暮ル、千五百二十年一月十一日船隊ブラタ川ノ河口ニ達シ大江天ニ接シテ長キ處錯マリテ以テ印度ニ通ズル海峡トナシ得ル處ナルベシト河心ヲ上下スル事數週ニ及ベル失策モアリテ、三月一日サンデユリアン港ニ入ル、時ニ天既ニ寒ク暫時ノ休養ヲ取ラントシタルニ久シク蟄服シ來レル不滿ノ徒ハ突然其ノ翌日一撥ヲ起シ部ノ三船相合シ喧騒歸北ヲ迫リテ熄マザルニ會ス、ビガフエツタノ手記ニ依レバ此事必シモ一部船員ノ怯懦ニノミ基クニアラズ、西班牙ト葡萄牙トハ當時相並デ覇ヲ海上ニ稱ヘテ降ラザリシニ際シ葡萄牙人タルマゼランノ下ニ率ラル、多數ノ西班牙人ガ動モスレバ彼ノ心事ヲ疑ヒテ心服シ得ザリシ事其ノ眞因ナルガ如シ（註九）マゼランノ沈勇ナル敢テ動カズ急ニヴィクトリアヲ襲ヒテ謀主メンドーザヲ刺シサンアントニオニ薄リテクエサダヲ擒ニシ次デ之ヲ斬リ、コンセプシオン風ヲ望ミテ降ルヤカルタジエナ及ビ不逞ノ僧ベーロサンチエーヲ陸上ニ逐ヒ反亂須臾ニシテ止ム。

四月更ニ南進ヲ續行シ偶「サンチャゴ」難破シタル爲メ其ノ乗員ヲ他船ニ移シ之ヲ拋棄シテ進ム、不幸ニ踵來シ「サンアントニョ」ノ乗組員復タ離反シ此航海中舳ヲ回ラシテ故國ニ向ヒ去レルアリシモ、終ニ前文掲ゲタル日ニ於テ無事南米ヲ回航シ始メテ太平洋ノ風光ニ接スルヲ得タリ、時ニ偶々波浪

靜ニシテ碧水弘澄鬚眉輒チ鑑スベシ、積日海若ト戰ヒテ憊困極マレルマゼランハ神護未ダ彼ヲ去ラザルヲ知リ流涕滂沱天ヲ仰イテ感謝之ヲ久フシ其ノ地角ヲ (Capo Desiderato) (祈願ノ岬) ト名ケ其ノ前途ノ大洋ヲ Mar pacífico (太平洋) ト命名シタリ、始メテ太平洋ヲ見タル歐洲人トシテハ之ヨリ先キ西班牙人 Nuñez de Balboa アリテ、ダリエン灣ニ上陸シ山ニ登リテ遙ニ南方積水ノ天ヲ涵スヲ觀テ土人ノ言徴シテ之ヲ Great South Sea ト呼ビ世ニ紹介シタリ、然レドモ輕軻波濤ヲ截リテ洋心ト浮ベルハマゼランノ一行ヲ以テ其ノ先驅トス。

(註六) Schwill: History of Modern Europe, p.p. 6—7

(註七) Lord Acton: Lectures on Modern History, p. 65

(註八) Do : Do, p. 67

(註九) Philip F. Alexander: The Earliest Voyages round the World, p. 2.

四

爾來彼ノ名ヲ冠シテ天下ニ知ラル、海峽ヲ通過シ了レルマゼランハ茲ニ南極ニ近キ沍塞ノ地ヲ脱シ數日間智利國ノ海岸ニ沿ヒ暖ヲ追ヒテ北航シタルモ、彼ノ使命タル決シテ米大陸沿岸ノ探檢ニ非ザルヲ斷乎トシテ部下ノ諫止ヲ斥ケテ十二月中旬懷シキ陸地ヲ後ニシ西ニ轉ジテ再ビ際涯ナキ遠洋ニ向ツテ進メリ、史家ノコロンブスノ遠征ヲ舒スルヤ蓬窓浪荒ミテ舟夫幾タビカ家郷ヲ思ヒテ止マザリシモコロンブスノ豪毅ナル巧ニ彼等ヲ慰撫シテ更ニ三日ヲ約シテ西航スル事ヲ定メ終ニ其ノ雄志ヲ果セル事ヲ傳ヘテ以テ異數ノ鴻業トナス、然レドモコロンブスノ陸地發見ハカナリ群島發航後

ノ第三十六日ノミ、之ヲ比スルニマゼランガ南米ノ陸影ヲ隔絶シテ以來人衆ヲ遠カル事一百日飄蓬萬里鯨鯢ヲ追ヒ櫛風休雨隱忍シテ撓マズ、遂ニ維時千五百二十一年三月六日豫期シタル東印度ノ一島ニ安着シ得タルニ比シ其ノ沈勇同日ノ談ニアラザルナリ、此間敗血病ハ勇敢ナル船員ヲ襲ヒテ多數ノ死者ヲ生ジ生存セル者亦學ナ病者ニアラザルナシ、食料盡キテ鼠ヲ捕ヘテ之ヲ食ヒ鼠亦盡クルニ及ビ柔革ヲ鹹水ニ浸ス事數日其ノ僅ニ軟化スルヲ待チテ之ヲ咀ミ、飲料水盡キテ鼻孔ヲ掘ミテ汚水ヲ啜リテ下等動物モ敢テセザル惡戰奮闘の生活ハ繼續セラレタルナリ然モ萬死ノ餘僅ニ達シ得タル最初ノ小島ハ慄慄ナル土人棲ミ彼ノ船ノ錨地ニ就クヤ剽奪殆剩スル處ナシ、彼ハ之ヲ Ladrones (盜賊ノ島) ト命名シ急遽破ヲ上ゲテ去ラザルヲ得ザルニ至レリ。

船隊ハ更ニ西シテグワム島ヲ經テ三月十六日フイリツビシ群島ニ着ス、到處基督ノ福音ヲ説キテ蠻人ヲ教化シ文明ノ技ヲ傳ヘテ其ノ産業ニ資ス、彼ノマクタン島ニ赴キ土人陽ニ歸伏ノ宣ヲ示シテ基督教徒トナリ隙ヲ窺フテ急ニ彼ヲ襲フニ會シ衆寡敵シ難ク蠻族島集ノ裡遂ニ絶大ノ探檢者ヲシテ劒ヲ按ジテ仆ル、ニ至ラシム、年齒僅ニ四十又一、土人屍ヲ藏シテ返サズ今ニ追デ彼ノ遺骨何地ニ在ルヤヲ知ル者ナシ、只數年前西班牙ノ有志相謀リテ彼ノ最後ノ地ト認メラル、處ヲ探リテ一基ノ碑ヲ建テ、彼ガ記念トセル事實アルノミ、然レドモ之ニ依リテマゼランガ世界ノ周航ヲ了ラズシテ死セリトスルハ非ナリ、彼ノ壯時彼ハ葡國ノ海員トナリ夙ニ東印度ニ航シテ此島ノ經度以東ニ達シタル事アレバナリ、況ンヤ彼ノ部下ノ少數ガ善ク萬難ヲ忍ビテ故國ニ歸還スルヲ得タルハ剛毅ナル彼ノ感化與リテ力多カリシニ於テ乎、彼ヤ屍ヲ馬革ニ裹ミ骨ヲ異郷ニ曝シタリト雖モ彼ノ靈ヤ蓋シ

天荒ヨリ其ノ部下ノ生殘船員ヲ叱咤シテ彼等ニ伴ヒテ故國ニ凱旋シタルナルベシ。

爾後ノ航海ハ事マゼランノ傳記以外ニ屬シ細說ヲ須ヒザルベシ。病魔ト賊難ニ累セラレタル遠征隊ハマクタンヲ去ルニ臨ミ僅ニ百十五人ノ生殘者ヲ留メタリ、然モ將帥失ハレテ内航漸ク生ジ船員互ニ相鬪ギテ死スル者少カラズ、サンチャゴ「沈ミ」サンアントニヲ「去タル殘餘ノ三船中、コンセブシヨン」ハ既ニ朽廢シテ用ユ可ラザルニ至レルヲ以テ之ヲ燒キ「トリニダツド」及ビ「ヴィクトリヤ」ノミ是等生殘船員ヲ載セテ歸航ノ途ニ上ル、然モ前者ハ後者ト和セズ舵ヲ轉ジテバナマヲ經テ歸途ニ就カントシ計成ラズシテ其後モラツカス群島ニ破船シ、四十七人ノ乗組員中生キテ故國ノ土ヲ履メル者僅ニ四人ノミ、後者ヲデルカノ一船長ニ戴キ貴重ナル香料ヲ滿載シ辛クシテ南阿ヲ回航シ飢餓ト敗血病ト敵意深キ葡萄牙人ノ迫害トニ苦シメラレ千五百二十二年九月六日漸クニシテ母國ニ達スルヲ得タリ、發程以來日ヲ重ヌル事三年同行ノ將士或ハ離散シ或ハ死滅シ或ハ刑ニ死シ生還シ得タルモノ十八人ノミ。

古來覆載ノ間冒險果敢ノ計畫決シテ鮮シトセザルモ其ノ辛勞ノ長日月ニ亘レル事ニ於テ其ノ犧牲ノ大ナル事ニ於テ斯ノ如キハ未ダ聞カザル處ナリ、所謂百歲ノ下懦夫ヲシテ起タシムル壯圖アリトセバ此行ノ如キ先ヅ學グベキモノナルベク、炯眼ナル史家ノ多クハ等ク彼ノ卓越セル偉業ヲ認ムルニ吝ナラズ、アクトンハ彼ヲ評シテコロンブスニ優ル唯一ノ航海者トナシ（註一〇）ドレーバーハ彼ヲ評シテ「人類ノ企業ヲ通ジテ彼ノ爲セル處ニ匹儔スル大事業モナシ況ヤ彼ニ勝ルモノヲヤコロンブスノ航海ノ如キハ彼ノ夫レニ比スレバ物ノ數ナラズ」ト云ヒ、ジョンフイスクハ「若シ彼ノ偉

業ニ過グル偉業アリトセバ夫ハ他ノ惑星ニ探檢ヲ試ムルモノナラザルベカラズ」ト云ヘリ、古キ史家中ニモリチャードエデンノ如キハ是ヲ空前ノ大冒險トナシ舊話ニ傳ヘラル、ジェーンソンガアルゴノー人ヲ率キテ金ノ羊毛ヲ得ル爲メニコルチスノ國ニ試ミタル遠征亦之ニ及バズ今後ノ人類亦終ニ長ヘニ彼ヲ凌ギ得ルモノナカルベシト激賞シタリ (註一二) フイスクガ其著 *Discovery of America* 中ニ於テ此事業ニ呈セル Doubtless the greatest feat of navigation that has ever been performed ナル頌辭ハ多數ノ歴史家が其儘ニ引用シテ彼ノ功蹟ヲ稱ル處ナリ (註一二)

(註一〇) Lord Acton: *Lectures on Modern History*, p. 65

(註一一) Meyers: *The Modern Age*, New York, 1903, p. 13

(註一二) Clive Day: *A History of Commerce*, London, 1901, p. 134

Sarah K. Bolton: *Famous Voyagers*, p. 153

五

想起ス二十八年以前偶々コロンプスガ新大陸發見ヲ爲セル第四百年ノ佳辰ニ際シフエルバ・ジェノア・マドリッド其他彼ノ功業ニ緣因アル各地ハ爭フテ彼ノ遺業ヲ記念シ數十日ニ亘リテ莊重ナル祝祭ヲ行ヘル事ヲ、フエルバハコロンプスガ征途ニ上ルニ臨ミ纔ヲ解ケル地ニシテ當時彼ガ其ノ部下ト共ニ聖餐ヲ受ケタル古寺今尙存ス、從テ市民ノ古英雄ヲ敬慕スルノ念亦最モ熾烈シテ特ニ盛大ナル祭典行ハレ、コロンプスノ探檢ニ加ハレル三隻ノ帆船ニ模シテ造レル同型同大ノ帆船ヲ造リ、英國ヨリ派遣セラレタル軍艦三隻水雷艇二隻ヲ始メ佛米獨逸希葡アルゼンチン共和國及ビメキシコ

等即チ歐米ノ文明國ノ總テヲ代表セル艦數十艘ノ整列セル間ヲ通過シ、四百年以前破天荒ノ探檢ニ上ルニ先チ彼等ノ投錨セリト想像セラレタル地點ニ碇泊セシメ、水陸幾十萬ノ觀衆之ヲ望ミテ萬歳ヲ唱シ、國王亦前記ノ古寺院ニ行幸シテ彼ノ冥福ヲ禱願シタリ。

ジエノアニテハ此日ヲ記念スル爲メニ二大金牌ヲ造リ一ヲ西班牙ノ女王ニ贈リ他ヲ伊太利國王ニ獻ジ別ニコロンブス博覽會ヲ開キテ當年ノ記憶ヲ新ナラシムベキ珍什ヲ陳列シ、祝典ノ當日ハ十五ノ國民ヲ代表スル軍艦其ノ埠頭ニ碇泊シ國王々妃ト共ニ親ク駕ヲ此地ニ進メ内外ノ臣僚ヲ引見シテ盛燕ヲ張レリ。

マドリツドニモ亦コロンブス博覽會開カル、最モ珍奇ナル陳列品トシテハコロンブス一行ノ水先案内人タリシ *Jean de la Cosa* ニ依リテ千五百年ニ造ラレタル海圖アリ、最モ世人ノ注意ヲ惹キタル列席者トシテハコロンブスノ後裔タル *Mathew Columbus* 及ビ其甥 *Christopher Columbus* ノ來リ會セルモノアリタリ、此處ニモ亦王室ノ貴人親臨シ葡萄牙ヨリハ國王及ビ女王ノ賓客トシテ來リ會セルアリテ盛大ナル儀式執行セラレタリ。

ニウヨークハ大發見ノ當日タル十月十二日伊國ヨリ贈ラレタルコロンブスノ記念像ノ除幕式ヲ行ヒ、同時ニ其ノ港頭ニハ最大規模ナル觀艦式舉行セラレ、伊佛西等ノ派遣軍艦亦之ニ加ハリ威容海若ヲ壓セリ前記フエルバ港上ニ浮ビタル三隻ノ舊式帆船ハ其後ハバナニ回航シ更ニニウヨークヲ經テミシガン湖ニ赴キ到處米國上下ノ熱狂の歡呼ヲ受ケタリ (註一三)

顧ミテマゼランノ偉業ニ對スル世人ノ注意ガ此ノ記念スベキ時季ニ於テ尙甚ダ淡キヲ見テハ吾人

彼ノ爲メニ一掬ノ涙ナキ能ハズ、世界文化ノ開拓ノ爲メニ人類幸福ノ増進ノ爲メニ又宇内通商關係ノ伸長ノ爲メニコロンブスヲ超越セル貢獻ヲ爲セル、而シテ豪邁至剛ノ氣象果敢猛進ノ勇氣ニ於テ彼ニ勝ル事甚大ナル而シテ其ノ末路ノ悲慘ニシテ豪末ノ酬ヒラル、處ナクシテ客死セル彼マゼランニ對シテハ世界文明ノ邦國ヲ舉リテ其ノ勳功ヲ追頌スル爲メノ一大盛典ヲ行フモ或ハ未ダ過ギタリトセズ、コロンブスガ大西洋ヲ横斷シテ歐洲ノ文明ヲ新大陸ニ移シタリト云ヒ得ベクンバマゼランハ太平洋太平洋及印度洋ヲ蹈破シテ文明ノ恩澤ヲ世界ニ布ケル者ニアラズシテ何ゾ、吾國ハ曩ニ米國ノ使節ペルリーノ來航ニ依リテ世界ノ文明ニ觸接スルノ機會ヲ得タリ、今ニ及デ吾國人中米國ニ負フ處大ナルヲ口ニスル者少カラズ浦賀灣ニ近キ米使着陸記念碑ハ此ノ思想ノ發露ニアラズヤ、ペルリーニシテ若シ果シテ爾ク吾國民ノ感謝ヲ値スベシトセバ彼ニ先ヅ三世紀半太平洋ヲ世界ニ紹介シ米國トアジア洲トノ容易交通シ得ベキ位置ニ在ル事ヲ天下ニ羽檄シ間接ニ日米交通ノ機會ヲ促進セシメタルマゼラン亦吾國人トシテ相當ノ感謝ヲ以テ記念セラルベキニアラズヤ、吾人ガ太平洋發見ノ第四百年ニ於テ聊カ舊記ヲ涉獵シテマゼランノ事蹟ヲ錄スル所以亦之ニ外ナラザルナリ。

(註一四) Hazell's Annual for 1893, P. P. 140-141 ヲ掲ゲランヤ The Columbus Celebrations ノ項參照。